会 議 録

会議の名称		令和5年度 第1回 守谷市環境審議会		
開催日時		令和6年3月8日（金） 開会：午後2時00分 閉会：午後3時45分		
開催場所		守谷市役所 A棟 3階 庁議室		
事務局（担当課）		生活経済部 生活環境課		
出席者	委員	清野会長、月岡委員、中村委員、飯田委員、椎名委員、松井委員、滑川委員、加藤委員、鈴木委員、野口委員（常総環境センター長代理）（10名）		
	その他			
	事務局	松丸市長 鈴木部長、中山課長、小島補佐、高橋係長、森係長（6名）		
公開・非公開の状況		☒ 公開	☐ 非公開	☐ 一部公開
		傍聴者数	1名	
公開不可の場合はその理由				
会議次第		<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 市長挨拶 3. 委嘱状交付 4. 委員及び事務局紹介 5. 会長及び副会長の選出について 6. 審議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和6年度守谷市一般廃棄物処理実施計画（案）について (2) 守谷市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（案）について 7. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 守谷市環境報告書について (2) 令和5年度公害実態調査について (3) 第24回利根川河川敷クリーン作戦の中止について 8. その他 9. 閉会 		
確定年月日		会議録署名		
令和6年5月17日		会長 清野 修		

審 議 経 過

1. 開会

2. 市長挨拶

3. 委嘱状交付

4. 委員及び事務局紹介

5. 会長及び副会長の選出について

【審議会条例第4条第1項の規定に基づき、委員の互選により会長に清野委員
・副会長に村上委員を選出】

司会： 市では、公開する審議会等の会議録への発言者の氏名記載について、会議において承認を得られたものについては、記載する方針としています。

会議録公表前に全委員に確認いただき、了承をもらうことを条件として、氏名記載を全会一致で承認いただいております。

【全会一致で氏名記載を承認】

6. 審議事項

(1) 令和6年度一般廃棄物処理実施計画（案）について

【資料1に基づき事務局より説明】

清野会長： 事務局の説明が終わりました。質疑等がありましたらお願いします。

月岡委員： 1ページのごみ排出量の推移について、令和5年度に人口増加のわりに排出量が少なくなっているのは、分別がきちんとなされているからですか。

事務局： 令和5年のごみ排出量の減少理由については、調査を実施したわけではないので推察ですが、令和3年から4年にかけて、新型コロナウイルス感染症の影響で皆様が外出を控えたことにより、排出量が増加したものの、令和5年に5類に移行したため、流行前に落ち着いているものと思われまます。

清野会長： それに関連して、2 ページの一般家庭の粗大ごみ排出量の部分ですが、令和5年度197から令和6年度303と5割増しになっており、極端に反動しすぎだと思えます。これが基本計画の数字そのものであるとすれば、計画の妥当性について見直さなくてもいいのか気になるところです。

事務局： 基本計画の策定は、コロナ禍以前のごみが増加傾向にあった時期でしたが、新しい生活様式の浸透により社会状況も変化したため、数字に開きが出ております。しかしながら、本市は人口増加傾向にありますので、そこを加味すると計画に近い数字になっていくという考えも持っております。

粗大ごみを減らす新たな取り組みとしまして、昨年6月から「おいくら」という不用品リユースの事業を開始しました。利用者がホームページに掲載した不用品について、単なる無償譲渡ではなく、有料で買い取りしてもらうというサービスです。

2月末の実績で219件、出品数で577点のやりとりがございました。今後、より一層の周知により利用拡大を図り、粗大ごみの削減につなげていきたいと考えております。

清野会長： ありがとうございます。他にご意見はございますか。

加藤委員： 今回は廃棄物処理の実施計画ということですが、廃棄物の減量化に関する計画というのは別にあるのかというのが一点です。次に、今後排出されていくごみの処理が、環境センターの現在の能力で賄っていけるのかというのが二点、最後に、ヤクルトの二軍施設ができた場合、排出されるごみも増加すると思えますが、その対策についてお聞きしたいと思います。

事務局： まず一点目の計画についてお答えします。

当市の廃棄物に関する計画として、「守谷市一般廃棄物処理基本計画」がございします。これは、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、市内の家庭や事業所などから発生するごみの減量から焼却などの中間処理、焼却灰などの最終処分を含めた、ごみ処理に関する基本的な事項を定めた総合計画となります。

一方、今回ご審議いただいている実施計画は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則」に基づき、基本計画を実施するうえで必要な、各年度の事業について定めるものです。従いまして各年度ごとに内容を見直して策定しております。

野口委員： 二点目の処理施設については、私ども環境センターからお答えします。環境センターでは、年間最大7万トンのごみ処理が可能です。現在稼働率100%に近い状況で運転しています。

ごみの減量化の点では、我々も「一般廃棄物処理基本計画」を定めており、その中で、ごみの排出量を徐々に削減していく計画となっていますが、なかなか減少していかない現状です。

計画の中では、ごみの発生抑制、資源化を促進するため、住民・事業者・行政の3者が取り組むべき施策も示しております。例えば住民の役割としては、マイバッグ・マイ箸の活用、食品ロスの削減、事業者としては分別と資源化の徹底です。また、堆肥化施設がございますので、生ごみの堆肥化事業も進めているところです。

さらに、アサヒビール様、キリンビバレッジ様の2社と連携し、令和6年4月からはペットボトルの水平リサイクルを実施し、資源の有効活用を図って参ります。

事務局： 続きまして三点目のヤクルト二軍施設の影響についてですが、今後、開設に伴いどれだけの来場者が流入するのか推計されておられませんので、増加するごみの排出量も読めないのが現状です。ただ、基本計画の進捗管理の中で、そういったイレギュラーの増加にも対応できるよう、状況を見極めながら廃棄物の減量を進めていきたいと考えております。

清野会長： ありがとうございます。他にご意見が無ければ、本件につきましては承認ということによろしいでしょうか。

【令和6年度一般廃棄物処理実施計画（案）について決定】

清野会長： 続いて審議事項2の守谷市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について議題とします。本件につきましては、市長からの諮問事項になります。それでは、事務局から説明をお願いします。

【資料2に基づき事務局より説明】

清野会長： 事務局の説明が終わりました。質疑等がありましたらお願いします。

飯田委員： 資料の17～18ページあたりのところで、排出量の計算方法が

出ていますが、これは県全体の中で守谷市の割合を案分しているの、各市町村の努力が反映されないのではないのでしょうか。例えば、事業所の産業部門の排出量は、生産量を下げない限りは削減されない。各民生部門については、家庭ということなので世帯数を減らさない限りは削減にならない。この計算ですと、例えば生産量が多い割には工夫して頑張っているということが全く評価できないと思うのです。この点についてどういう方法で評価するのかについて、見通しがありましたらお教えいただきたいと思います。

事務局： 各自治体における産業別の二酸化炭素排出量については、環境省が「自治体排出量カルテ」というものをホームページで公表しております。そこで自分の自治体を選択していただくと、各産業別の排出量が、年度ごとに示されるような形になっています。2年度ぐらい遅れて公表されますが、我々はそれを見ながら確認しております。

清野会長： よろしいでしょうか。その他にご意見はございますか。

加藤委員： この計画書ですが、「守谷市環境基本計画」が上位にあり、その下にこれが来るという解釈でよろしいですか。

事務局： 計画の位置づけは加藤委員がおっしゃるとおりです。
第3次守谷市環境基本計画については、市民アンケートの実施など事前準備がありますので、令和6年度と7年度の2カ年で策定し、令和8年度から令和17年度までの10年間で実施する予定になっています。
今回の区域施策編につきましては、令和4年度に補助金を活用して実施したポテンシャル調査の交付要件が、この区域施策編を2年以内に策定することとされております。また、本計画の内容については、今後策定する第3次守谷市環境基本計画の中に吸収していく予定でございます。

加藤委員： 資料の25ページに温室効果ガスの削減目標がありますが、目標年度の排出量を達成するためには、具体的に毎年何トンの削減が必要かというものを示すとわかりやすいと思いますがいかがでしょうか。

事務局： 今回の計画については、法律において策定方法が定められている部分もありますので、計画自体はこのまま出させていただきます。

きたいと考えております。

ただし、加藤委員がおっしゃるように、本計画については策定するだけでなく、市民の皆様や事業者の皆様にわかりやすく周知をするということが重要になりますので、ご意見を参考にさせていただきながら、今後ホームページや広報で周知を図って参ります。

清野会長： その他にございますか。

加藤委員： 資料における表記の件ですが、年数については元号と西暦を併記した方が良いと思います。計画期間等が平成と令和に跨った場合に、西暦を入れておくとそのポイントがすぐ掴めますので、そうされた方がよろしいかと思えます。

清野会長： はい。ありがとうございます。今後の資料についてはそういう方向でご検討をよろしくお願ひしたいと思えます。

大分ご意見が出たようですのでこの辺で、質疑につきましては終わりにしたいと思えます。

本件については諮問事項ということになります。これまでの議論を踏まえまして、基本的ないろんなご意見出ましたけども、原案通りということによろしいでしょうか。

【異議なし】

【守谷市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（案）について決定】

7. 報告事項

清野会長： それでは議事に戻りまして、報告事項に移りたいと思えます。
(1) の守谷市環境報告書について事務局からお願いします。

【資料3に基づき事務局から説明】

清野会長： はい、ありがとうございます。
報告事項ですので、(2) 令和5年度公害実態調査について
(3) 第24回利根川河川敷クリーン作戦の中止についてについても続けて説明いただきまして、最後に質疑を受けたいと思えます。

【資料4、5に基づき事務局から説明】

清野会長： はい。ありがとうございます。以上報告事項の3点について説明がありました。まとめて質疑、意見等がございましたらお願いしたいと思います。

加藤委員： まず環境報告書についてですが、こちらは計画の進捗管理におけるPLAN・DO・CHECK・ACTIONにおける、CHECKに相当するものだろうと思います。例えば4ページ目にある「環境指標の進捗状況」の中で、平成26年度末の現状値、これが基準値に当たるとすれば、令和4年度末の実績値について、目標に対してどれだけ達成できたかという検証を行い、達成できなかったことに対してアクションを考えていくべきですね。

次に、5ページの保存緑地について、いくつか数字が並んでいますが、これをどのように評価すべきなのかわかりませんでした。これに関する計画のようなものがあり目標値が定めてあれば評価はできると思いますが、それが無ければ、市民1人に対して緑地の面積がどの程度なのかというのが1つの判断要素になると思います。

市民が増えていけば、それだけ居住スペースがあるわけですから、当然ながら市内の緑地面積に関係してくる。つまり、緑地面積を人口で割り、一人当たりの緑地面積が何平米になるかという指標値を上げて評価するというのも一つではないでしょうか。

続いて公害実態調査についてですが、21ページに苦情受理の報告がございます。この左端に「大気汚染」の件数が0とありますが、測定をしていないのであれば掲載の必要も無いのではないかと思います。

最後に放射性物質の測定の件です。

以前、私の自宅付近のグラウンドの線量が高い表面を削り、袋に入れて埋めたようですが、その部分の測定は実施しているのでしょうか。

事務局： はい、まず環境報告書の位置付けについてご説明いたします。

これは計画書とは異なり、環境基本条例に基づき、前年度における守谷市の環境の状況及び保全に関して、講じた施策を報告するものになります。したがって部分的に環境基本計画書の指標値が掲載されております。

大気汚染に関しては、市民の皆様からお受けした連絡の回数を計上しております。大気汚染について測定をしない理由ですが、以前は二酸化窒素濃度の測定をしておりました。ただ、そちらを実施していた団体から、継続が難しいという話があり、その時点

で、しばらく二酸化窒素濃度が基準値を超えていなかったということから、その年以降実施を止めております。また、大気汚染に関する施策を主体的に行うのは茨城県になりますので、県では、毎年、大気汚染防止法に基づく特定施設に対して、立ち入り検査を実施しております。その際に市の職員も可能な限り同行して情報を共有しています。

最後に放射線量の測定ですが、毎年春と秋に、市内の公園と、児童施設や小・中学校施設、加えてひがし野にありますプロムナード水路において、測定結果をホームページにおいて公表させていただいております。

清野会長： ありがとうございます。

8. その他

清野会長： 最後に全般を通して何かございますか。無ければこれで本日の審議会を終了したいと思います。

長時間にわたりご苦労さまでした。ありがとうございました。

9. 閉会